

石井としひろの「館山市政かわら版」

敏 宏

館山市議会議員

館山市と千葉県の未来



1、食のまちづくり拠点施設

①地元の農産物を販売する道の駅

館山市内では、地元の人も観光客も「できれば地元の食材を食べたい」、小売店も飲食店も「できれば地元の農水産物を出荷したい・使いたい」、生産者も「できれば地元で農水産物を出荷したい」とずっと思っていました。しかし、流通がうまくいかず、こういった「地産地消」は十分にできてこなかったのが実情だと思います。

そこで、館山市では「食のまちづくり」を進めるとして、そのために「拠点施設」を作ることにしました。この施設を簡単に言うなら、「地元の農産物を販売する道の駅」となります。道の駅とするか否かは、主に駐車場とトイレを閉店時間に閉めるか、24時間利用可能にするかの違いですから、観光振興の観点から、24時間利用可能とする「道の駅」にした方がいいのです。

②イノシシの処理施設は必須。ジビエ食肉加工施設もチャレンジの価値あり

なお、出野尾のごみ処理場の近くに、「有害鳥獣処理施設」も作る予定ですが、これは捕獲したイノシシの処分のために必須のものです

また、処理施設の近くに、イノシシ等の「食肉加工施設」を作る予定ですが、捕獲したイノシシ肉の有効活用はずっと議論になっており、これもチャレンジしてみる価値はあると思います。先行事例である君津市では、市で1つ食肉加工施設を作った後に、民間企業が進出し2つの食肉加工施設を作ったので、ジビエにも一定のニーズがあることがわかります。

となると、政治的論点は館野九重地区に作る「食のまちづくり拠点施設」の必要性とそのあり方に絞られると思います。

③前澤基金の性質

前澤友作氏から寄付のあった20億円ですが、用途は「観光振興」に限定されていました。ご本人の了解を得て、「コロナ禍における経済支援」にも用途は拡大されましたが、基本は観光振興が目的です。用途を寄付者が選べるのがふるさと納税の存在意義でもあり、福祉や教育には使えない性質のものです。

館山市では、観光の行動計画など各種の行政計画を立てるも財源の問題から実行できないことが多々ありました。今回の「食のまちづくり計画における拠点施設」も、10年以上前から議論が続いてきたものですが、財源不足で実現できなかった計画です。前澤基金の使い道は新たな思いつきよりも、これまでの議論の延長線で考えた方がいいでしょう。

なお、通常は経済政策よりも、福祉・教育・インフラの維持補修など生活に欠かせないことに、予算は優先的に配分されます。

一方、前澤基金は観光振興に用途が限定されていることから、通常では挑戦できなかった経済政策に使うことができるのです。つまり、「チャレンジ資金」的な性質があるのではないのでしょうか。食のまちづくり拠点施設を作るならば今回は最後のチャンスになります。

ちなみに、前澤基金の使い道について、市民が新たな提案を市に対してすることは可能です。市民協働条例には提案制度があるので、制度に基づいて市に企画書を提出すれば検討してくれます。

④千葉県内の道の駅巡り

館山市の施設整備計画は、「飲食店・加工所・物販施設」を作るなどの必須要件もありますが、具体的な施設建設に関しては、民間事業者の企画に委ねられています。つまり民間のノウハウを重視しているのです。

これから、事業者の公募と選考が行われるわけですが、どういう施設にすればいいのか、どういう事業者が入ってくれるといいのか、参考事例を探して、昨年12月に県内の道の駅をたくさん見学してきました。

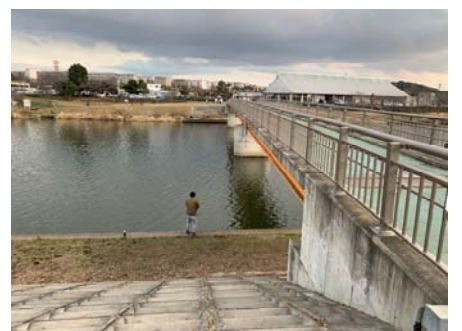
木更津市にある「道の駅 うまくたの里」では、新鮮な農産物を提供できる生産者を多く集めて、活気のある売り場を作っており、多くの観光客が訪れていました。この道の駅は新しいタイプですが、昔ながらの道の駅よりもかなりグレードアップしています。

⑤イメージとしては八千代市の道の駅と農業施設に似ているのではないか

館山市で目指している施設は単なる道の駅ではなく、加工所も含めた農業の拠点施設です。そのイメージに近い施設を八千代市で見つけました。

川沿いにあり、カヤックなどの自然体験ができます。レストランと農産物の直売所はもちろんありますが、地元の牛乳を使ったアイスクリーム屋、地元の野菜を使った総菜屋なども入っていました。

いちご狩りなどの体験



農業も提携農家の所で行うこともできます。施設の事務所と総合窓口もあり、まさに拠点施設でした。

しかし、加工所はあっても稼働していませんでした。また、イベントがある日の集客と比べると、平日の賑わいはイマイチのようです。こうした先行事例を研究して、館山市の拠点施設が機能するように政策提言を続けたいと思います。

⑥賛成して前向きな提案をするか、反対かのどちらか

この事業に期待する声と、「場所があそこがいいのか」「館山ならではの売りはあるのか」「採算が合うのか」など事業に懐疑的な声の両方が市民から寄せられています。

つまるところ、賛成して前向きな提案をするか、費用対効果が悪いと反対するかのどちらかです。私は率直なところ、かなり迷いましたが、賛成して前向きな提案をする道を選びました。

⑦地元で立ち上がる大切さ。市民参加の必要性

岩手県の紫波町でオガールプラザという官民連携の施設がうまくいっています。使い道がなくほったらかしになっていた町有地に、町役場と図書館など公共施設を集約し、商業エリアのテナントには地元の事業者をたくさん入れ、賑わっています。

成功のポイントは地元の民間人が立ち上がり、外部の人材とノウハウを入れ、地元のテナントを多く入れたことです。外部の人が主導するのではなく、あくまでも地元が主導し、外部の力を借りているのです。

また、行政も市民説明会を繰り返し行いました。もちろん市民のアイデアを参考にする意味もありますが、市民はビジネス面では顧客にあたるからでしょう。市民にそっぽを向かれた官民連携計画は失敗します。

館山市でも、民間では地元の人が立ち上がり、行政は市民参加を進めることで、未来を切り開いて欲しいと思います。

2. 知事選が近い千葉県の未来を考える

①千葉県政に挑戦する熊谷俊人氏(現・千葉市長)に期待

千葉市は人口約100万人の政令指定都市です。この政令指定都市は市でありながら、都市計画や許認可など県の役割の多くを担っています。いわば、県の役割も兼ねたスーパー自治体なのです。

そこで市長を12年近く務めた熊谷俊人氏はもうすぐ43歳。若くして、高度な行政手腕を発揮し、大組織を巧みにマネジメントしてきました。

②台風15号の対応とコロナ対策も的確

台風15号への対応も的確でした。例えば、罹災証明はこれまでの判定基準では99%が一部損壊になってしまふところ、その見直しを市長村長たちの中心になって国に求めたのも熊谷氏でした。結果として、館山市でも半壊以上の証明が多く出たわけですが、もし一部損壊扱

いになってしまったらと考えるとぞっとします。

なお、熊谷市長は館山市の災害復旧のために、千葉市の応援職員を派遣してくれました。最近の南房総市でのダム渇水問題でも、給水車を派遣してくれており、千葉県南部のこともよく考えてくれています。

また、今回のコロナ対策でも、速やかに保健所体制と医療体制を整備し、感染者の自宅に生活用品を届け、飲食店には感染対策費用の助成とともに、デリバリーを支援するなど経済対策も的確です。

③千葉県のビジョンは、東京の隣の北海道。アクアライン800円はもちろん継続

「千葉県は、東京・神奈川・埼玉という一都三県の都市的な枠組みで考えるのではなく、『東京の隣の北海道』というイメージで、豊かな自然と文化を活かし、観光・リモートワーク・二地域居住などを推進したい」という考えを熊谷氏はもっています。

当然、アクアラインの800円は継続するとのこと。また、千葉県南部はイノシシなどの有害鳥獣問題で苦労していることも理解しており、県としての対策を強化したいと話していました。

熊谷氏は千葉県の北から南までの状況をよく理解しており、「対話と情報公開」を重視しています。地方政治家としては全国一の力量があると私は見ており、ぜひ千葉県政の未来を担って欲しいと思います。



<発行者> 石井敏宏
〒294-0038 館山市上真倉320-2
TEL&FAX: 0470-23-7738
携帯: 090-1557-5515
メール ishiitoshihiro1@gmail.com
ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>

石井としひろ 略歴
昭和47年2月26日生まれ。
館山二中、安房高、立教大学法
学部卒業。平成23年4月に館
山市議会議員に初当選。

